

## 家族

防災会議という言葉をご存じですか。

これは、災害が発生した時のために、家族の役割分担や最寄りの避難場所、家族間の連絡方法などを確認しておくものです。

災害が発生したとき、火の始末や避難経路の確保など、やるべきことは意外と多いものです。

今月号では、家庭でできる災害への備えを紹介します。

## 災害

発生時は、動揺して思ったように行動できないことが多いものです。

そこで、いざというときに言うべきことを書き出し、家族でそれぞれ役割を決めておくことが大切です。

### 災害時の主な行動

- ・ 自分自身の安全確保
  - ・ ガス台やストーブなどの火の始末
  - ・ 避難経路の確保
  - ・ 非常持ち出し品の持ち出し
  - ・ 子どもやお年寄りの保護
  - ・ 避難時の電気ブレーカー遮断、火の元の確認
  - ・ 初期消火
- その他にも、テレビやラジオなどで正確な情報を収集する必要もあります。

## 避難

するときには、最寄りの避難場所に向かいます。札幌市にはそれぞれ役割の異なる三種類の避難場所があります。

### 一時避難場所

一時的に安全を確保する場所。地域の公園などが指定されています。

### 収容避難場所

冬季や長期間の避難が必要な場合の場所。学校や地区の会館などが指定されています。

### 広域避難場所

大規模火災が発生したとき安全を確保する場所。大きな公園などが指定されています。



中央区では、避難場所や避難の心得なども掲載している「中央区ガイド」(区民のページ「ちゅうおう」表紙参照)を配布しています。家からの所要時間など、実際に歩いて確認してみましょう。

## 連絡

方法の確認も家族間で行っておく必要があります。

水害や地震などの災害発生時は、電話が込み合い、つながりにくくなります。このようなどき便利なのが、NTTの「災害用伝言ダイヤル」(左図参照)です。

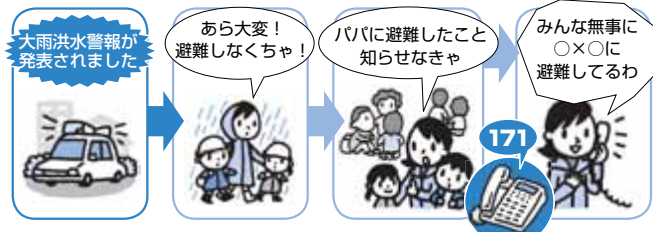
これは、災害発生時に

「171」へダイヤルし、音声ガイダンスに従って伝言の録音や再生を行うものです。詳細はNTT東日本のホームページ(<http://www.ntt-east.co.jp/saigai/>)をご覧ください。

非常持ち出し品とは、避難時に家から持ち出す最低限必要な食料品や衣類などの生活用品です。災害発生時は、ライフラインが機能しなくなり、水道、ガス、電気などの供給が停止する恐れがあります。復旧体制が整うまでの約3日間は、家庭内で対応できるようにしておくことが大切です。左図を参考にそろえておきましょう。

### <災害用伝言ダイヤル「171」の利用方法>

#### 録音手順

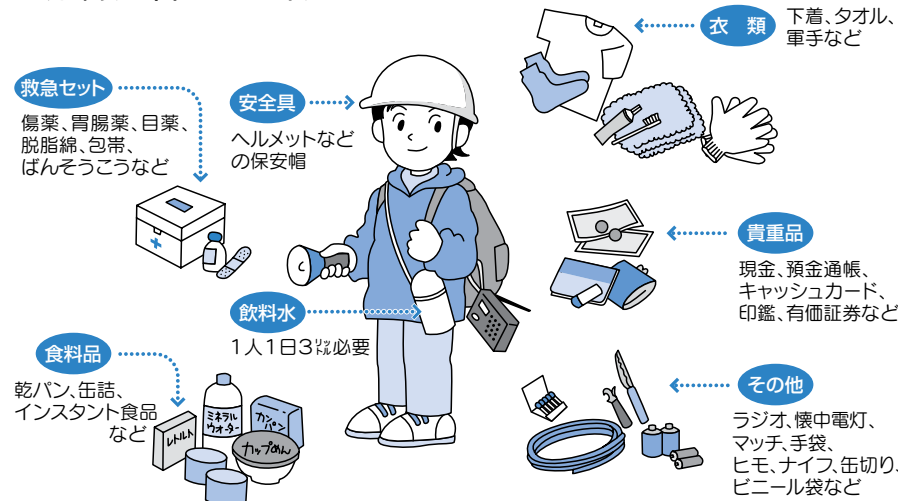


#### 再生手順



※災害時以外は利用できません。

### <非常持ち出し品の一例>



※赤ちゃんにはミルク・哺乳瓶・オムツ、お年寄りにはおんぶひも・常備薬なども必要です。